

## 文化・芸術

メルトオフ・プリーツ・メタリック織物「オホ・デ・ディオス」

1985年

新井淳一 (1932~2017年)

オホ・デ・ディオスとは、「神の目」という意味の、メキシコのお守りとして知られる工芸品です。37歳で初めて海外、メキシコへ行った新井は民族衣装や工芸品に魅了され、収集の出发点ともなりました。

オホ・デ・ディオスは、十字形に結んだ木の棒にいろんな色の糸をひし形に巻いたものですが、本作はその形に由来していません。十字につけられた折りじわと、その交点を中心にした銀色の柔らかいひし形模様。プリーツのしわ一つ一つが、巻かれた糸を表現しているかのようです。

加工が施される前は、全面銀色の布でした。本作は透明フィルムの上にアルミを蒸着したラメ糸で織られています。それを絞り染めの要領で、ひし形の模様になるよう、しばって防染し、アルカリ溶液で煮ると、フィルムの表面のアルミだけが溶け、防染している部分以外は透明になります。この「メルトオフ」という方法で新井は多彩な模様を生み出しました。

(池田)

《名画の扉》

大川美術館企画展から

